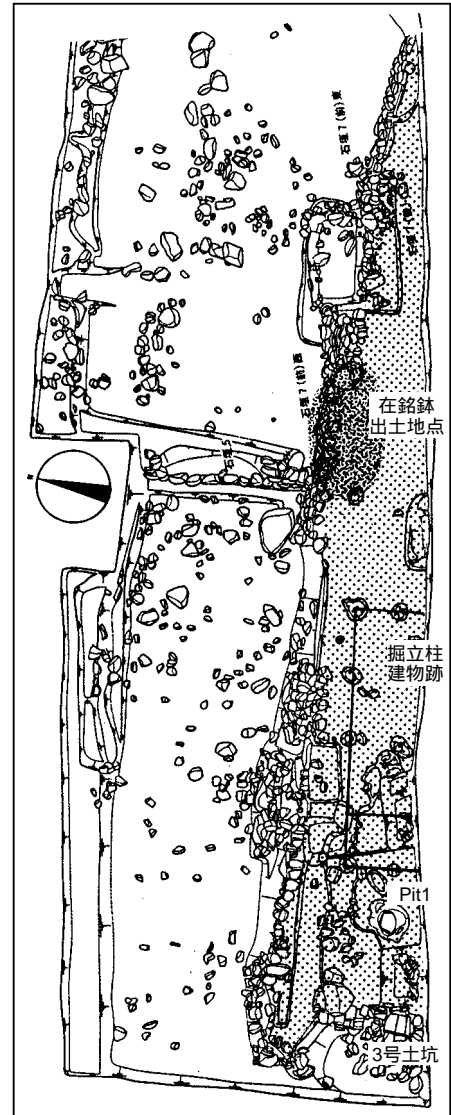


第6次調査位置図 (S=1/4,000)



護岸の石垣と平坦面 [V区] (東から)



V区遺構図 (S=1/2,000)



3号土坑のレンガ積み (西から)



在銘方形鉢 外底面

④
③
②
①
(文) 政七 甲申 (八) 月 日
(加) 大聖寺九谷ニ
□ 鉢
□ 前
□ 國
□ 印

紀年銘

平成11（1999）年度下半期の遺物整理作業

企画部整理課

1班 金沢市梅田B遺跡（1995年度調査）出土品の実測・トレースを主とした整理作業を行った。梅田B遺跡は、縄文時代から近世にかかる複合遺跡であり、今年度整理した出土遺物も、土器は古墳時代の甕・壺・高杯から近世の染付碗。木器は古墳時代の杭や板材、鎌倉時代の井戸の支柱。珍しいものでは、平安時代の鉄鍋の土製鋳型や大正時代から戦前にかけての薬瓶、磁器製のコンセントプラグなどが見られ、幅広い時代にわたるものであった。（明田奈々）

2班 羽咋市四柳白山下遺跡（1994・1995年度調査）の整理作業が10月18日に終了し、次に遺構図トレース作業を中心とした鹿島町武部ショウブダ遺跡（1983・1984年度調査）、金沢市田中遺跡（1991年度調査）。続いて、小松市三谷大谷遺跡（1985年度調査）、金沢市高岡町一ツ水溜遺跡（1997年度調査）、加賀市吸坂E1号墳（1995年度調査）、加賀市黒瀬御坊山A1号墳・黒瀬瓦窯跡（1997年度調査）津幡町加茂遺跡（1991・1993年度調査）の整理作業を行った。中でも黒瀬御坊山A1号墳では、乳児を埋葬したと思われる甕や、勾玉、鏡、剣、刀等珍しいものに触れることができた。（下村 薫）

3班 金沢市藤江C遺跡（1998年度調査）の出土遺物の整理作業として、数量的には土器約900点、石器40点余りの実測及びトレース作業を行った。縄文時代から江戸時代にわたって多種の遺物が出土しているが、土器に関しては古墳時代前期の甕が大半を占め、これらは完形のものは少ないが、口縁部から体部にかけて残りの良いものもあり、壺・器台・高杯や須恵器の杯・壺なども含まれていた。石器は、打製石斧・磨製石斧をはじめ、輝石安山岩製の石鏃や砥石、緑色凝灰岩製の管玉、勾玉など、弥生から古墳時代のものが見られた。これらの作業を通してこの遺跡は特に古墳時代前期において最盛期を迎え、大きな集落を形成していたことが窺えた。（海野美香子）

4班 加賀市弓波遺跡（1994年度調査）は弥生・古墳・奈良時代の遺跡である。遺物は石器（磨石）土師器、須恵器、が主でこれらの実測トレースを行った。次に金沢市藤江B遺跡（1998年度調査）である。この遺跡では須恵器の杯、盤、大型甕、土師器の長胴甕等、木製遺物では焼印の入った樽の部材、井戸枠、石器では石斧を実測、トレースを行った。実測でしっかりと遺物を見ることからはじめ、文様や成形方法、痕跡、調整痕を正確に図に表現することを痛感した1年であった。（池田くみ子）

5班 10月から田鶴浜町三引遺跡（1996～98年度調査）の分類・接合を行った。破片が大きく、大型化しそうなものを中心に、形ある土器になるよう何度も大量のパンケースを見直した。その結果、立派な土器に成長させることができた。その後、田鶴浜町大津くろだの森遺跡（1995年度調査）では500点の縄文土器実測を終え、再び三引遺跡の分類と補強を行った。三引遺跡では、珍しい文様や圧痕の残る底部等、重要な資料を多数分類したことは、縄文を学ぶ上で貴重な経験を得た。（今井雅恵）

6班 金沢市戸水C遺跡・同古墳群（1996年度調査）、近岡遺跡（1997年度調査）の記名・分類・接合を終えた後、戸水C遺跡を中心に木器・金属器・石器（打製石斧・打製石鏃等）の実測・トレースを行った。次に経王寺遺跡（1998年度調査）の記名・分類・接合及び実測・トレースを行った。近世～近代の遺物が主で、様々な染付製品、越前の播鉢・土瓶・行平等の陶磁器類、土人形陶磁器、土人形、土師器皿が殆どを占めていたが、中にはわずかな縄文土器も見られた。中でも内面に劃花文が施された青磁の大鉢については特に注目をした。今回整理に携わった事によって、新たに知り得た事が多く、私自身大変勉強になった遺跡であった。（芝山美知代）

7班 加賀市松山C遺跡（1997年度調査）の実測・トレースの後、珠洲市宇治役場裏遺跡（1997年度調査）の記名・分類・接合と実測・トレースを行った。殆どが飛鳥時代から平安初期の製塩土器と